

全配協法人販社会の新たな動きと配置業界の牛黄問題

発行：日本置き薬協会 事務局

1) 全配協法人販社会の新たな動き

一般社団法人全国配置薬協会の配置部会内の下部組織となる「法人販社会」は、昨年12月13日に中国、四国、九州地区会議を福岡市で開催した。

席上、同会会長の柳瀬昭氏は、法人販社会の「活動と方針」と題し、既存配置に留まったままの法人配置販売会社を、所謂「新配置」への移行を促すべく、懸念材料だった一般従事者の業務の範囲等を明確にするため厚労省担当官と折衝し「配置販売業に関する威勢薬事法Q&A」作成に取り組んできた事を報告。

また、日本配置販売業協会（右近保会長）幹部との会談に際し、消費税増税に対する一般用医薬品の軽減税率導入や税制控除制度の新設、配置薬の保険適用などを協議するとし、分裂状態の配置薬業団体の接点を模索するとした。

これらの税務、社会保険制度に関わる事は、薬業連絡協議会で提案されており、分断関係にあるものの、今後の問題について共通認識を持つものと理解でき、接点の模索の可能性を期待できるところだ。これらはOTC薬業界全体の課題であり、配置もその一員として、配置業界全体が協議し対応すべき事である。そのためには「全配協本部」の協力を必要とし、全配協法人販社会の活動が注目されるところである。

(2) 配置業界の牛黄問題

昨年12月11日の厚労省医薬食品局の通知「ブラジル産のウシ等由来物を原料として製造される医薬品、医療機器等の自主点検について」により、配置業界の一部に混乱が生じた。某ドリンクメーカーがこの通知により、牛黄配合製剤の製造を一時停止すると通知したのだ。この時期は、風邪の罹患に併せて滋養強壯を標榜するミニドリンク剤の得意先への配置の真っ只中で、製造停止による欠品は業者の死活問題につながるからだ。幸い、この一時停止は解除され製造開始されたが、以前から危惧されていた問題も露呈した。というのは、店舗で販売されるNB商品との差別化を図るため、配置業界のほとんどの総合感冒薬には牛黄が配合されており、また六神丸などの所謂強心剤は、牛黄が必定の成分でもあり、牛黄の供給の不安定は、配置業界に大きな影響をもたらすためだ。

牛黄は牛の胆石であるため、千頭に一頭の割合でしか発見されない貴重な生薬原料で、大規模食肉加工設備を有する国が主産国となっている。オーストラリア、アメリカ、ブラジル、インドなどだが、BSE問題で牛黄は危険部位ではないものの、安全を期するため原産国が限定されている。北米産は事実上、使用禁止であるところに、今回のブラジル産ウシ等由来原料の今後の輸入等見合わせ指示により、現状でさえ、中国需要の高まり等で国際価格が上昇傾向にあるなか、更なる価格上昇は、製品の納入価や販売価格に繋がりがかねないとしている。

本件に関するお問合せ先 **日本置き薬協会 事務局**

〒114-0023 東京都北区滝野川3-56-9

TEL. 03-5974-6227 FAX. 03-5974-6224

日 置 協